

## 序.予習と復習の原則

工学院大学学則では、定期試験で 60 点以上とるだけでなく、1 コマの講義に対して 1 時間半の予習と復習をするという前提のもとに各学生に 2 単位を授けるということが明記されています。

## 1.教科書の活用

教科書『図説 西洋建築史』の該当箇所の内容を理解すること 各講義で取り上げる箇所は以下の通り

1. 序+ - 「建築」の語源+ オリエント世界の建築：古代 1、2
2. 古代 1 - ギリシア・ローマの建築：古代 3 ~ 10、12、13、14、15
3. 古代 2 - 古典の継承と消失：中世 1 ~ 5
4. 中世 1 - カテドラルの時代：中世 6、7、9、10
5. 中世 2 - 都市文明の勃興：古代 11、中世 11 ~ 14
6. ルネサンス 1 - 古典主義の誕生：ルネサンス 1 ~ 7
7. ルネサンス 2 - 百花繚乱の建築家たち：ルネサンス 8 ~ 13
8. ルネサンス 3 - 新旧の様式の相克；中世 8、ルネサンス 14、15
9. 欧州史の表舞台 - 戦争の建築：中世 15、バロック 13、新古典主義 12
10. バロック 1 - 反宗教改革の建築：バロック 1、3、4
11. バロック 2 - 絶対王政の建築：バロック 5、7、8、11、14
12. バロック 3 - 都市の破壊と再生：バロック 2、6、10、12、15、新古典主義 11
13. 啓蒙時代 - 古典古代との決別：バロック 9、新古典主義 1 ~ 5、7  
新古典主義 6、8、9、10、13、14、15 近代建築史に関連する章

## 2.レジュメの活用

レジュメは各自、講義前に中島智章研究室のウェブサイトから入手すること

ウェブサイトのアドレス：<http://www.ns.kogakuin.ac.jp/~dt13029/>

PDF ファイルのフォーマットは A4 下記のいずれかの方法で印刷すること

- 1) A4 版のまま、あるいはやや縮小して印刷し、章ごとに切り取ってノートの各ページの頭に貼り付ける
- 2) A3 版に拡大して A3 用紙に拡大印刷する(各自、行間に記入するための十分なスペースを確保するため)

## 3.その他

レジュメや板書は、あくまでも各種データを並べて、講義内容の骨格を示しただけの文字の羅列に過ぎません。講義後にそれだけみても講義内容を理解できるというものではなく、講師の話に注意深く耳を傾け、重要なところを自ら判断し、ノートに書取ることが全ての基本です。

学士の学位を持って建築に携わるものとして恥ずかしくない知識は得てほしいですが、昔の人がどのように建築物を建てたのかを学ぶことにより、彼らの苦勞を身近なものとして感じてくれると幸いです。なお、講義参加にあたり、最低限、次の 2 原則の遵守を求めます。

- 1) 質問など講義に関係のあることを除いて、一切声を発してはならない。
- 2) 健康上の理由などやむをえぬ場合を除き、退室は全く認められない。入室と退室を繰り返すなどは言語道断。